

春の植物案内



4月～5月

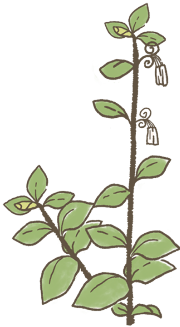
AREA 7 クマガイソウ

落葉樹林、スギ人工林、竹林内に生える多年生草木。群生することがある。種子で繁殖するほか、地下茎が分枝し栄養繁殖する。

5月～6月

AREA 7 ヤマフキオゴケ

草丈は1mになる大型の多年草。山地の半日陰に生育する。葉はやや厚く、紫や白い花をつける。絶滅危惧Ⅱ類に分類。



4月～5月

AREA 8 ヤマトグサ

牧野が日本人で初めて学名を付けた植物として有名。草丈20cm位。湿地を好み横に広がって増える。花は目立たないが話題性が高い。町内の標高の高い所にはよく見られる。

4月～5月

AREA 8 ラショウモンカズラ

山地の落葉広葉樹林に生える多年生草本。つる性で地面を這う。

4月～5月

AREA 8 オウギカズラ

山地の日陰で増える。茎を伸ばして、途中から根を下ろして繁殖する。花は通常薄い紫だが、濃い色もある。

4月～6月

AREA 8 ヤマブキシソウ

高知県では梶原町にだけ自生。この仲間の「セリバヤマブキシソウ」が「らんまん」で取り上げられます。



AREA 11 山菜 イタドリ

土佐を代表する山菜。春一番に芽吹き、茎を勢よく折ると、ポンッと音がする。そのまま生でも食べることができ、酸っぱい。塩漬で保存し、冬には煮物などでいただくのが一般的。

AREA 11 山菜 ワラビ

シダの仲間。早春を代表する山菜で、新芽が子供のにぎりこぶしにしていることから「わらべしい」という意味を込めて、ワラビといわれるようになった。生では毒があり中毒を起こすので、食べるためにはアク抜きが必要。

ゆすはら湿生園

YUSUHARA BOTANICAL WETLAND GARDEN



AREA 11 山菜 **ゼンマイ**

シダの仲間。ゼンマイの新芽はくるくと渦を巻いていて、それが名前の由来。男ゼンマイ(胞子葉)と女ゼンマイ(栄養素)があり、女ゼンマイしか採ってはいけないのが、山菜採りのマナー。

AREA 11 山菜 **ノビル**

形は浅葱アサツキ、香りは蒜ニンニクに似ると言われている。柔らかい若葉と白い球根を共に食用にする。



AREA 11 山菜 **フキ**

春先に土から出てきた花の蕾のことを「ふきのとう」といいます。天ぷらやフキ味噌などで食べられる。花が咲いた後、同じ根から出てきた葉のくきが「ふき」となります。筋を取り軽く湯搔いて煮物などで食べる。



AREA 11 山菜 **ハナウド**

セリの仲間。「うど菜」ともいわれる。春先の柔らかい出だしの新葉を食します。その後、5~6月に線香花火を逆さにしような白くて小さな花をたくさんつける。

2月~5月

AREA 11 **ミツマタ**

和紙の原料。かつては、栲原の人々の重要な収入源であった。枝は3つに分かれるのが名前の由来。3月頃、葉が出る前に、蜂の巣のように集まった淡黄色の花を下向きに咲かせる。



4月~6月

AREA 11 **ヒメコウゾ**

和紙の原料。落葉低木で、平地や低山の林縁にはえる。成木では葉はほとんど分裂しないが、若木では3つに切れ込んだり、葉の形が変異しやすい。6月頃に赤い果実を詰め、甘く食べられる。

4月~5月

AREA 11 **ツルギミツバツツジ**

四国の1000m以上の山岳に見られる。オンツツジと同期に開花。オンツツジは朱色だがこちらは濃いピンク(赤紫色)。四国各地にオンツツジを植栽した名所は多いがツルギミツバツツジを植栽した所はない。

4月~5月

AREA 11 **クリシマミズキ**

高さ3mほどの夏緑性の低木で、冷温帯のブナ、ウラジロモミ、サワグルミ、サワシバなどが混生する林内の生息する。岩の堆積したところを好む。

夏の植物案内

6月～7月

AREA 3 ○ ヤマアジサイ

落葉低木。町内の標高の高い林内にはたくさん自生しておりそこで発見された園芸的優良品種に銘が付けられ全国的に流通しているものもある。

7月～10月

AREA 3 ○ クサアジサイ

一般的なアジサイは「木」であるが、本種は「草」の仲間のアジサイである。草丈 60cm 程度で、半日陰のやや湿った場所を好む。3枚のとがった花びらが特徴的で、開花は夏。一般的なアジサイよりも遅く咲く。

8月～9月

AREA 5 ○ ヒナシャジン

四国西部の石灰岩地固有種。牧野先生が横倉山で発見・命名。丈 80cm 位。



6月～7月

AREA 6 ○ ミズチドリ

明るい湿地に生える多年生草本。種子で繁殖するほか、地下部に新芽をつくり栄養繁殖する。

7月～8月

AREA 6 ○ ギンバイソウ

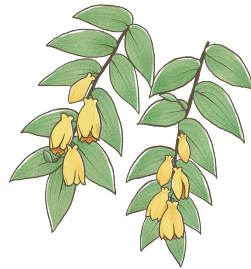
山地の木陰に群れになって生える。特徴のある葉を茎の途中につけ、沢沿いの斜面に多い。草丈は 40～70cm、夏に花を咲かせる。花の色と形から「銀梅草」と名がついた。



7月～8月

AREA 6 ○ オコトラノオ

沖縄を除く日本各地の日当たりの良い山地、湿気のある草原や湿地に生える。草丈は 60～90cm、茎の先に小さな白い花を総状につけ、だんだん細くなり軽く垂れ下がる。



7月～9月

AREA 6 ○ ジョウロウホトギス

牧野先生が高貴なお花と位置付ける。佐川町、越知町、旧葉山村だけに自生。急斜面か石垣から垂らして植える。強い日差しは無理。

7月～9月

AREA 6 ○ ハガクレツリフネ

ホウセンカの仲間の1年草。四国の冷涼地に群生。

8月～9月

AREA 6 ○ オオキツネノカミソリ

8月に花穂を伸ばし開花する。“らんまん”で登場する花は梶原町産の株が使用されます。

ゆすはら湿生園

YUSUHARA BOTANICAL WETLAND GARDEN



8月～9月

AREA 6 シロバナサクラタデ

日当たりの水湿地に生える。花の穂はしなやかに垂れ、白い花が咲く。花時の草丈は60～100cmくらい。めったに結実せず、主に地下茎で増える。

6月～7月

AREA 7 ミヤマコナスビ

全国的には希少な種類だが、梶原町やその近隣には多い。地面を這って広がる。

6月～7月

AREA 7 ナツエビネ

エビネの仲間の多くは春咲きだが、当種は8月に咲く。四万十川流域に稀に自生。

8月～9月

AREA 7 マネキグサ

草丈30センチ位、湿地を好み横に広がり増える。高知県では旧物部村の自生地がシカの食害で激減、まとまって自生しているのは梶原町だけ。

4月～6月

AREA 8 ヤマブキシソウ

高知県では梶原町にだけ自生。この仲間の「セリバヤマブキシソウ」が「らんまん」で取り上げられます。



6月～7月

AREA 8 ワタナベソウ

高知県では旧吾川村と梶原町にだけ自生。草丈は60～70cm。花穂を立てて開花。湿った所を好む。



AREA 11 山菜 ミョウガ

高知の暑い夏を乗り切るためには、欠かせない香味野菜。高知県はみょうがの生産量日本一である。栽培には、日陰を好む。

5月～6月

AREA 11 ツルギミツバツツジ

四国の1000m以上の山岳に見られる。オンツツジと同期に開花。オンツツジは朱色だがこちらは濃いピンク（赤紫色）。四国にオンツツジを植栽した名所は多いが、ツルギミツバツツジを植栽した所はない。

6月～7月

AREA 11 ハシドイ

ライラックの自生種。白い花。四国カルストには多い。苗1m、樹高5m。

6月～9月

AREA 11 シコクエビラフジ

四国の固有種。マメ科で、草丈80～100cmになる大型多年草。6～9月に紫色のハギのような花をつける。梶原町は重要な自生地になっている。

秋の植物案内

7月～10月

AREA ③ クサアジサイ

一般的なアジサイは「木」であるが、本種は「草」の仲間のアジサイである。草丈 60cm 程度で、半日陰のやや湿った場所を好む。3枚のとがった花びらが特徴的で、開花は夏。一般的なアジサイよりも遅く咲く。

8月～9月

AREA ⑥ オオキツネノカミソリ

8月に花穂を伸ばし開花する。“らんまん”で登場する花は梶原町産の株が使用されます。

8月～10月

AREA ⑥ ツリフネソウ

8月に花穂を伸ばし開花する。“らんまん”で登場する花は梶原町産の株が使用されます。

8月～9月

AREA ⑦ マネキグサ

草丈 30センチ位、湿地を好み横に広がり増える。高知県では旧物部村の自生地がシカの食害で激減、まともな自生しているのは梶原町だけ。

9月～10月

AREA ⑧ アケボノソウ

山地の日陰で湿り気のあるところを好む。草丈 50～100cm の一年草。上向きの白い花をつける。花びらに特徴的な斑点があり夜明けの星空に見立てたことが、名前の由来。

6月～9月

AREA ⑪ シコクエビラフジ

四国の固有種。マメ科で、草丈 80～100cm になる大型多年草。6～9月に紫色のハギのような花をつける。梶原町は重要な自生地になっている。

10月～12月

AREA ⑪ ツノハシバミ

落葉低木で、山地の明るい林内に生える。実は細いクチバシの伸ばしたようなツノがあり、独特の形をしている。ヨーロッパ原産のセイヨウハンバミが、ヘーゼルナッツの木であり近縁種。

12月

AREA ⑪ クマヤマグミ

高さ 1～3m の落葉低木。赤い実をつけそのまま食べられる。県内では、梶原町、香美市、仁淀町にわずかに生育しており、絶滅危惧 1A 類 (CR) に指定。

ゆすはら湿生園

YUSUHARA BOTANICAL WETLAND GARDEN